

# rivière vol.44

Mukogawa Women's University, Mukogawa Women's University Junior College Division

リビエール  
武庫川女子大学通信



2020  
WINTER

This is ME! 夢のムコーガワ

短期大学部 生活造形学科 インテリアコース卒業

杉山 裕香 さん

文学部教育学科 健康・スポーツ専攻卒業

弓山 千亜紀 さん

めざせ! 東京五輪

期待のアスリート

健康・スポーツ科学科1年

高飛び込み 荒井 祭里 さん

短期大学部 健康・スポーツ学科1年

体操 杉原 愛子 さん



阪神電車 鳴尾・武庫川女子大前駅  
HANSHIN RAILWAY Naruo・Mukogawajoshidai-Mae Station



# CONTENTS

3

巻頭特集

## MUKOJO Principles

2019 → 2039

教育・研究／社会貢献／運営  
記念行事

12

## 武庫川TOPICS

キャンパスの情報を紹介します!!

16

## めざせ!東京五輪 期待のアスリート

(高飛び込み) 健康・スポーツ科学科1年生 荒井 祭里 さん  
(体操) 短期大学部 健康・スポーツ学科1年生 杉原 愛子 さん

18

OGに聞く This is ME! 夢のムコーガワ  
カルモ精工株式会社 製造部仕上げグループ  
杉山 裕香 さん  
高丸工業株式会社 ロボット技術部 ロボット技術課 主任  
弓山 千亜紀 さん

20

## 武庫川就職掲示板

気になる就職活動の“今”を  
お伝えするコーナー

22

## 学生・生徒の活躍

華々しい受賞結果をご報告

23

## HONTANA

リビエール ブックセレクション

## Book Center

CULTURE RANKING  
売れ筋ランキング

rivière リビエール 武庫川女子大学通信 Vol.44 2020 WINTER (2月)

●発行／武庫川学院 ●編集／武庫川学院広報室  
●企画デザイン協力／大和出版印刷、くとうてん

# rivière vol.44

Mukogawa Women's University,  
Mukogawa Women's University Junior College Division



### 今号の表紙

昨年10月、駅名が「鳴尾・武庫川女子大前」に変更され、駅の高架下には「武庫女ステーションキャンパス(MSC)」が開設。武庫女の玄関口として、また地域の方々との交流・地域貢献の場としての活用が期待されます。

### Editor's note

2019年は、様々な学院創立80周年の記念事業が行われました。記念式典では、創立以来の武庫川学院の歴史と今に触れ、これからの新たな女子学園の姿を考える機会となりました。

100周年に向けて「MUKOJO ACTION 2019-2039」が動き出しています。指針となる「MUKOJO Principles」の事例となる取り組みを、巻頭特集でご紹介します。

そして、今年はいよいよ「東京オリンピック」。期待のかかる武庫女のアスリートたちの活躍を願って、声援を送りましょう!

# MUKOJO Principles

2019 → 2039

武庫川学院は2019年の創立80周年を契機に、「日本の女子大を、更新しよう。」のスローガンのもと、創立100周年に向けてさらなる飛躍を目指すプロジェクト「MUKOJO ACTION 2019-2039」に取り組んでいます。

学院の未来像となる「一生を描ききる女性力を。」と題した「MUKOJO Vision」(2019年5月1日公表)の行動指針となる「MUKOJO Principles」は、以下の4つの柱からなります。現在、これらを具体化する実行計画の策定を進めています。

- 【教 育】 教育の質の向上と特色の探究
- 【研 究】 研究の高度化と多様性の追求
- 【社会貢献】 地域や社会の発展への貢献
- 【運 営】 教育研究環境の充実と経営基盤の磐石化

今回のリビエールでは、「女性一人ひとりのライフデザインを支える総合大学」として、「教育」「研究」「社会貢献」「運営」の各分野において、「MUKOJO Principles」の行動指針を具現化している方々の取り組みを紹介します。

# 教育者、研究者として 誠実に、全力で目の前のことに取り組む。



国立大学法人 弘前大学 理事・副学長

## 郡 千寿子さん

文学部国文学科(現日本語日本文学科)1987年卒、  
本学大学院文学研究科国語国文学専攻修士課程1990年修了  
2009年博士号取得(文学)

### Profile

2016年より弘前大学の理事(研究担当)・副学長。弘前大学経営評議会委員、教育研究評議会委員、弘前大学附属図書館長、弘前大学教育学部教授を併任。日本語学(語彙史)が専門で、現在は室町時代から江戸時代にかけての「抄物」や「往来物」といった当時の講義録、教科書を対象に、主に言葉遣いの変遷などについて研究する。現在、全国大学国語国文学会の代表委員も務めている。

専門領域である日本語の歴史に興味を持ったのは、大学2年生の時。評価が厳しいことで有名だった「国語史」の先生にレポートを褒められ、学問の面白さに触れたのがきっかけだった。

「法学部、経済学部を志望しており、それまではあまり勉強にも身が入っていませんでした」と振り返る郡さんだが、そこから勉強が始まる。4年生の頃には、恩師の先生に連れられて学会や研究会にも参加。その際に、後に師事する島津忠夫先生(大阪大学名誉教授・故人)らとの出会いもあった。大学院でも精力的に研究に取り組み、助手時代には島津先生の指導の下、「真字本方丈記」の研究書を出版。また、前田富祺先生(大阪大学名誉教授)の研究室で『日本国語大辞典1〜13巻』の編集にも携わる。

「家族の反対を押し切って進んだ研究の世界。大変なことも少なくありませんでしたが、主体的に選んだ道で諦めずに頑張れたのは学問の面白さだけでなく、友人や恩師たちからの激励が大きかったと思います」

面白さだけでなく、友人や恩師たちからの激励が大きかったと思います」

毎年必ず論文を発表し、研究者として社会に還元する

関西の複数の大学で講師を務めた後、1999年弘前大学教育学部に就任する。「35歳までに就職できなければ研究職は諦める」と決意していた目標は達成したが、「研究や教育に完成はありません」という言葉通り、さらに精力的な研究教育活動が始まる。

研究者として大切にしているのが毎年、研究成果を公表するということ。これは助手時代から続けたことで、就職後、授業や学内の業務で忙しくなっても変わることはなかった。

「地道に誠実に基礎研究に取り組む、発表することで社会に還元する。研究者は業績がすべてであり、研究活動が私のベースとなっています」

その姿勢は副学長・理事となっても変わらず、本来は管理職務に専念しないといけないところを「研究は止められません」と志願して

本学入学当初は文学部の学びに興味を持てなかったという郡さんが、どのようにして学問の面白さに触れ、研究活動に入っていったのか。また、弘前大学初の女性理事として活躍されている現在に至るまで、どのように研究や教育に取り組まれてきたのか、その仕事の流儀や大切にされていることについてお伺いしました。

教授職を併任し、現在も授業を受け持ち、研究活動にも取り組む。理事の仕事との両立は大変そうにも思うが、「研究者は研究しているのが楽しいので、苦にはなりません」と笑顔を見せる。

そんな郡さんが、弘前大学に着任して以降、力を入れているのが「往来物」を対象とした庶民の教育環境の研究だ。これまでにない言語研究へのアプローチとして注目を集め、独自の視点からの研究活動は文部科学省の科学研究費補助金に毎年採択されるなど、内外から高い評価を得ている。

「手取り足取り指導するといふより、みんなが切磋琢磨できる環境やムードを作り、自身は学生たちを支援しているイメージです。その中で、自らが気づき、考え、行動する力を育てていきます」

こうした郡さんの教育方針の根底には、恩師の「自分がしてもらってうれしかったことは、後の世代の人たちに返していきなさい」という教えがある。まさにその実践が、学生の

うこと。秘訣を伺うと、「特別なことをしているつもりはないけど、雰囲気づくりがうまくいっている」という回答が返ってきた。

それは「みんなで頑張ろう」という雰囲気づくりで、「一生懸命に勉強や研究に取り組む学生が増えると、周りも引つ張られ、全体的なレベルアップにつながる」といふ。



郡ゼミには一つの自慢がある。それは歴代のゼミ生が教員採用試験に現役で合格し、先生になっているという

「このように、自分からしてもらってうれしかったことは、後の世代の人たちに返していきなさい」という教えがある。まさにその実践が、学生の

武庫川女子大学助手時代に上梓した『真字本 方丈記 影印・注釈・研究』(和泉書院・1997年)を執筆する際に参照した、『真字本 方丈記』(武庫川女子大学附属図書館蔵)。以降も精力的な研究活動を続け、学会誌への掲載や国際学会での講演など、専門分野において数多くの実績を残す。

自発性を育む「マニュアル的な指導ではない、自分で正解を見つけるための教育」につながっている。

「コンプレックスだった」「私立の女子大出身」が、最大の個性と思えるように

弘前大学で初の女性役員(理事)となった郡さんだが、彼女が入ったことにより役員会議をはじめ、様々な場面でムードが変わったと言われていることが多くなったという。例えばそれは、紛糾しそうな議題の場合はあらかじめ部長に相談し、事前調整を行った上で会議に臨むなど、行き届いた仕事の進め方にも表れている。こうした自身の仕事を客観的に見た時に感じたのが、「私が武庫女で育ってきたことが、大きいのではないか」ということだ。

「弘前大学の元同僚で、現在武庫女で恩師と出会って学問が面白くなり、研究を諦めなかったこと、その時々で一生懸命やることが今につながっている」と郡さん。また、「人間がものを考えるためのベースになるのが国語。AIが発達すればするほど人間にしかできないことが大事になっていく」と専門である人文学の研究分野の重要性にも触れた。

最後に、「武庫女で学んだことが今につながるすべての礎になっている。皆さんも武庫女に誇りを持って、これから活躍してほしい」と学生たちにメッセージを送りました。

女の文学部で教えられている山本欣司先生から、「武庫女は素晴らしい大学で、郡さんの今の仕事ぶりはこの環境で育ったからこそあるんだ」というのがよくわかりました」と言われたことがあって。すごくうれしく、自己肯定感も高まりました」

実は弘前大学に赴任した当初、私立の女子大出身という経歴がコンプレックスだった。東大、京大をはじめ研究者は有名国立大学出身者が多く、引け目を感じていたという。しかし、今では武庫女出身であることが職場における自分の個性であると思えるようになった。

「最近では、どこに行っても、わざわざ『武庫川女子大学出身』と言うようにしているんです」と語る郡さん。国立大学の改革が迫られている今、女性ならではのリーダーシップを発揮するその手腕への期待は、ますます高まっている。



研究、教育活動のほか、入試や就職をはじめとする各委員の業務も率先して引き受けてきた郡さん。そこには「恩師に恥ずかしくない生き方を」という思いと、採用してもらった弘前大学への感謝の気持ちがあり、そうした行動の積み重ねが結果的に周囲の信頼獲得にもつながっていった。(弘前大学構内 弘大カフェ前)

### 特別講義 「目の前の課題に全力投球— 教育研究職から大学マネジメントへ」



### 本学のキャリア関連科目で 後輩たちにメッセージを送る

2019年度後期の共通教育キャリアデザイン科目「卒業生が語る仕事と人生」に登壇し、これまでの人生を振り返りつつ、仕事や研究への取り組みや考え方について語りました。

「志望大学へ入れず武庫女へ入学したこと、離婚したこと、その後の就職がなかなか見つからなかったことなどがありました。今思えば失敗ではなくすべてが経験。武庫女で恩師と出会って学問が面白くなり、研究を諦めなかったこと、その時々で一生懸命やることが今につながっている」と郡さん。また、「人間がものを考えるためのベースになるのが国語。AIが発達すればするほど人間にしかできないことが大事になっていく」と専門である人文学の研究分野の重要性にも触れた。

最後に、「武庫女で学んだことが今につながるすべての礎になっている。皆さんも武庫女に誇りを持って、これから活躍してほしい」と学生たちにメッセージを送りました。

地域住民を笑顔でつなぐ

参加型音楽会

本学のキャンパスから程近い場所にある UR 浜甲子園なぎさ街の集会所では、ほぼ毎月1回、「武庫川女子大学音楽学部 浜甲カンタービレ」による音楽会が開催されています。企画・運営する音楽学部の多田秀子准教授や有志の学生と、同イベントを通じて近隣住民の皆さんで結成された合唱団「なぎさハーモニー」のメンバーの声をお届けします。



音楽学部 多田 秀子 准教授

音楽を通して地域の交流を活性化する「浜甲カンタービレ」

活動の始まりは、浜甲子園団地のリノベーションに入っておられた生活環境学科の担当の先生から「音楽でも何かできませんか」と相談を受けたこと。当時の学生たちと一緒に考え、立ち上げたのが浜甲カンタービレです。本年度は音楽学部の学生45人で運営しています。

今でもよく覚えていますが、2012年第1回浜甲カンタービレを開催した時の来場者数は3名。そこからチラシを配布したり掲示板に貼らせていただいたり、広報活動に力を入れ、住民の皆さんと学生たちが顔馴染みになっていく中で、徐々に参加者も増えていきました。2年目から演奏会とは別に練習会を開催し、参加

型にすることでプロジェクトがさらに活性化。学生が歌などを指導することで、より身近に交流できますし、住民の皆さんからも好評をいただいています。

地域の方々に喜んでいただくと共に 学生たちの格好の勉強の場にも

地域の皆さんから掛けられる「ありがとう」「楽しかった」といった喜びの声が、私や学生たちの何よりのやりがいになっています。そうした声に今後も応え、浜甲カンタービレをより良いものにしていくために、毎回配布しているアンケートに書いていただいたリクエストソングを取り上げるなど、今まで以上に住民の方々のご要望にお応えするプログラムにして

いきたいと考えています。

参加者の方からは「学生さんが成長していく姿も楽しみ」というお声もいただいています。定期演奏会や文化祭での発表会に足を運んでくださるなど、心から学生たちのことを応援してくださり、とてもありがたいと感じています。学生にとっては、「喜んでいただくには何をすればいいか」を自ら考え、実践する勉強の場になっており、高齢者の方を中心とした地域の人たちと交流する中で、コミュニケーション能力も育てられています。

今後の課題は、なぎさハーモニーのメンバーを増やし活動を充実していくこと。浜甲カンタービレの活動を通して、地域のコミュニティーがさらに活性化することを目指します。



団地内に新たにできた分譲マンション1階にある浜甲リビング。同マンションに入居された住民の方と、既存の浜甲子園団地の住民の皆さんの交流の場として開設されました。これまでの浜甲カンタービレの活動と並行して、こちらでは手あそびなどのレクリエーションも取り入れ、地域の子もたちを対象とした活動に取り組んでいます。

浜甲カンタービレ 2020年スケジュール

開催日時: 2月16日(日) 13:00~14:00  
テーマ: みんなの音楽会  
会場: なぎさ街東集会所

開催日時: 3月15日(日) 13:00~14:00  
テーマ: 届けSAKURAメッセージ  
会場: なぎさ街東集会所

開催日時: 5月24日(日) 13:00~14:00  
テーマ: Happy Mother's day  
会場: なぎさ街東集会所

開催日時: 6月28日(日) 13:00~14:00  
テーマ: Happy Father's day  
会場: なぎさ街東集会所



学生と住民の方がお互いに顔見知りになり、名前でも呼び合える関係性を築いています。この日はクリスマス直前ということで、クリスマスソングを中心に発表が行われました。



音楽学部 演奏学科2年 武庫川女子大学 附属高校出身 長田 紫苑 さん



ここではお客さまとの距離が近く、その場でじかに様子がわかり、感想をいただけるのが楽しいです。なぎさハーモニーでは歌の指導を担当し、皆さんの表現力にいつも驚かされています。授業の中で「歌は人生経験が表現に表れる」と教わりましたが、そのことを改めて実感し、多くのことを学ばせていただいています。

なぎさハーモニー 金内 晶子 さん



毎年3月になぎさハーモニーの発表会があり、本番に向けた練習会で、学生さんに指導していただいています。浜甲カンタービレとなぎさハーモニーの活動のおかげで、住民同士の交流も増えました。また、学生さんの演奏会を鑑賞する機会も多く、その体験を通して私自身の音楽の世界も大きく広がっています。

なぎさハーモニー 厨子 昇太郎 さん



ハーモニカ演奏で施設の慰問活動をしており、曲のレパートリーを増やせればと浜甲カンタービレに参加しました。以降、楽しみになって毎回欠かさず来ており、孫のような学生さんたちからいつも元気をもらっています。多くの楽曲を教わったことで、ハーモニカの演目も増やすことができました。

提案をもとに実現・稼働している教育改善・改革プランの事例

● 新任教員研修プログラム（職員の提案）

2017年より、前期期間中の毎週水曜日の2限に講義とアクティブラーニング形式の複合型で全15回の研修を実施しています。専門性や経歴、年齢などが異なる新任教員が共に本学の教育理念や大学教育の最新動向、カリキュラム、授業の設計・方法・評価等について系統的に学び、互いの知恵を共有してさらなる教育の質向上

を目指すことを目的としており、参加者からは好評を得ています。



● Writing Plaza（教員と職員のグループ提案）



学生のアカデミックライティング力育成に向けた自律学習環境の整備について、外国語教育推進室、共通教育部、中央図書館、英語文化学科の連携により検討を行い、2017年より実施しています。ネイティブ講師との個別カウンセリング形式によりライティングの指導を受けることで、個々の学生の能力やニーズに応じたサポートが可能となり、授業以外の学修時間の増加にも繋がっています。

● 新任職員育成制度 Rising3（職員のグループによる提案）

職員の専門性を高め、教職協働の中で大学教育の質向上に取り組める職員を組織的に育成することを目的とした研修制度で、2019年より実施されています。1年目は、大学職員として事務を進めるための基礎知識を修得し、2年目は前期に上述の新任教員研修プログラムを受講して教職協働を経験し、後期に共通教育初年次ゼミに参画して大学の授業を理解します。3年目にはそれまで学んだことから課題

を設定し、グループ発表を行うことで職員として幅広い視野と専門性を高めます。



最新の採択状況（2019年度）

提案	提案者	内容
Global Speakers Seminar - Japan Tour 2020-2030	教員（個人）	高校生・高校教員対象の英語スピーチセミナーの全国展開を通じた本学のグローバル教育の広報と発信型英語教育の推進
生涯学習に位置付ける主体的な課題設定と実学としての資格	教員（グループ）	資格取得を目標とし、主体的にキャリアプランニングができる、生涯学習に位置つけた実学を理解できる授業実践
工房型 STEAM 教育に向けた課外 PBL の実践	教員・職員（グループ）	「プログラミング×ものづくり」を目的とする「工房」における課外 PBL の実践を通じた学生の「主体性、実行力、共創力」の育成

ば、2017年4月、学生部に開設された「学生サポート室」もその一つです。コーディネーターや専門員を配置し、気軽に相談できる窓口として修学上のサポートが必要な学生たちのキャンパスライフを支援。また、学生サポートスタッフを募集し、ノータイクや移動サポートなども手掛けています。学生サポート室は、一人の先生の提案でしたが、採択後に開設に向けた複数の先生と関連する事務局職員によるプロジェクトで検討を行い、現在の形となりました。



学生サポート室では、車いす補助などの講習を行っています。



成果が認められた事案を、学長が表彰。

取り組みが学内を活性化させるとともに、学外への情報発信の機会にも採択後は進捗状況を定期的に確認し、成果に対して学長表彰が行われています。提案が実現することで

「私も考えてみよう」「教育をより良くしていくのは自分たちだ」という機運が高まり、学院の一体感が高まる要因になっていると思います。成果については、学外の学会や研修会で事例発表されたり、他大学からの

「教育改善・改革プラン」は創立80周年に向けてスタートした制度ですが、今回新たに策定されたMUKOJO Vision 及び MUKOJO Principles をもとに、より発展的な制度にいく必要があると考えています。本学には「立学の精神」を掲げ、80年という歴史の中で築かれてきた非常に大き

な教育の土台があります。それを支えとして更に教育の質を向上させていくこと、そしてこれからの20年に向けてのメインテーマである「一生を描ききる女性力」を育成するために「女性一人ひとりのライフデザインを支える総合大学」としていかに特色ある教育を展開していくことができるかということが、そこにポイントを置いた支援制度にしていければと思います。個々の知見やアイデアと繋ぎ合わせて「武庫女としての大きな力にしてい」く「教育改善・改革プラン」への、教職員からの提案が数多く寄せられることを期待しています。

本学では、創立75周年を機に、2015年度より大学教育の質の改善・改革にかかる提案を教職員より募る制度「教育改善・改革プラン」をスタートさせ、教職員が丸となって大学教育の質向上を推進してきました。今回、MUKOJO Principlesが策定され、さらに発展的な制度に。これまでの過程と成果、そしてこれからのことについて、教育開発支援室・田中邦子課長代理にお話を伺いました。



教育開発支援室 課長代理  
田中邦子さん

教職員のアイデアにより、  
大学教育の質を向上していく制度を運営

教職員たちの思いを形にする「教育改善・改革プラン」

2015年より、教職員からの提案「教育改善・改革プラン」が実施されており、教育開発支援室は、募集から採択にかかる庶務を担当しています。この制度は、大学教育の質をさらに向上させる目的でつくられました。下図の4テーマについて提案募集を行い、優れた提案に対して、

学院が方針にのっとった支援を行うというものです。個人・グループを問わず、「こんな取り組みが学生の力を伸ばす」、「こんな取り組みがあればいいの」といった思いやアイデアをもとに応募することが可能です。実際、これまでに応募、採択された内容を見ると、個々の先生が担当している授業改善や学科としてのカリキュラム改善に繋がるものから、大学全体の制度設計に関わるものま

で多岐にわたっており、5年間の実績として80件の応募があり、28件が採択されました。採択された提案が多数稼働例年、7月から9月中旬にかけて募集を受け付け、学長らの選考を経て、12月に結果が発表されます。過去に採択されたものは既に稼働、定着しているものも多く、例え

全教職員で力を合わせて  
取り組む4つのテーマ

1. より良い授業方法の工夫と実践
2. グローバルな視野を持った指導的女性の育成
3. キャリア形成の支援
4. FD・SDの推進

\*1 FD（ファカルティ・ディベロップメント）  
\*2 SD（スタッフ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み。  
職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援などの資質向上のための組織的な取り組み。

学院としての支援方針

1. 方針展開の体系化・組織化
2. “やりがい”を高められる制度づくり
3. 教育活動の充実に向けた環境整備
4. 独創的研究活動の環境整備
5. 組織運営体制の見直し



講堂ロビーでは、学生によるトーンチャイムやマンドリンのウェルカム演奏で来賓を迎えました。



祝辞を述べる宇多喜代子さん



最初に大河原量学院長・理事長が、学生・生徒に向かって創立からの思いを託し「社会で存分に活躍できる力をここで養ってください」と式辞を述べました。続いて来賓代表の、文部科学大臣・萩生田光一氏代理の文部科学省私学部長・白間竜一郎氏、兵庫県知事・井戸敏三氏、全私学連合事務局長・小出秀文氏から祝辞がありました。卒業生を代表して、日本芸術院会員・俳人で2019年度文化功労者に選ばれた宇多喜代子氏がお祝いの言葉を述べ、福原寿美枝教授が独唱「ああ感謝せん」を披露しました。

第一部

11/10 記念式典  
武庫川学院創立80周年記念式典

武庫川学院創立80周年記念式典が公江記念講堂で挙行了れ、来賓、卒業生、学生、生徒、学院関係者ら計約2000人が出席し、創立80周年を祝いました。

創立80周年から、100周年に向けて。

武庫川学院創立80周年を迎えた昨年、様々な記念行事が行われました。「記念フォーラム」「記念シンポジウム」では、女子大学としての取り組みや役割など、今後具体化される「MUKOJO Principles」の核が示されました。

7/6 記念フォーラム  
進化し続ける女子総合大学の挑戦

記念フォーラム「日本の女子大を、更新しよう。進化し続ける女子総合大学の挑戦」が、公江記念講堂で開催されました。記念講演の第一部では、バナニックス株式会社執行役員の小川理子さん、尼崎市長の稲村和美さんが、それぞれの経験と女性のキャリアについて講演。第二部はトークセッション「進化し続ける女子総合大学の挑戦」として、瀬口学長から学院の挑戦コンセプトが語られました。



トークセッションでは、2019年4月に開設した教育学部と、2020年4月に開設する食物栄養科学部、建築学部、経営学部から、各学部の特徴などのプレゼンテーションが行われました。会場の高校3年生から、第一部の登壇者へ活発な質疑応答がありました。

9/28 記念の万葉歌碑  
万葉歌碑除幕式、記念講演会、記念演奏会

学院記念館前で万葉歌碑の除幕式が行われました。歌碑は校祖の出身地にある丹波石を用い、学院の名前の由来となる武庫川が詠まれた歌が刻まれました。日下記念マルチメディア館メディアホールでは、大阪歴史博物館館長・栄原永遠男氏による記念講演会「武庫川をめぐる神・仏・人」が行われ、岡本三千代氏と万葉うたがたり会が記念演奏会「令和の万葉歌碑を言祝ぐ」として万葉歌を披露しました。



10/5 記念シンポジウム  
女子大学の未来を拓く



記念シンポジウム「女子大学の未来を拓く」が、日下記念マルチメディア館メディアホールで開催されました。第一部の基調講演では、昭和女子大学理事長・総長の坂東眞理子氏が「令和時代の女子大学の役割」と題して講演、女子の教育やその課題、女性のキャリアについて話しました。本学の瀬口和義学長は、

第二部

「人物で綴る武庫川学院の歩み」と題して、初めに武庫川高等女学校の一期生3人が登壇し、開設当時のエピソードを語り、母校の発展をうれしく思っていると話しました。続いて、附属中学校・高等学校のコーラス部が合唱を、附属幼稚園の5歳児が歌とダンスを披露しました。三好庸隆生活環境学部長は、10月にオープンした武庫女ステーションキャンパスの概要を紹介。附属中学・高等学校のロボット研究チームが、制作したロボットで会場を沸かせました。東京オリンピック出場に期待のかかる、カヌー部原綾海さん（健康・スポーツ学科4年）、体操部杉原愛子さん（健康・スポーツ学科1年）の紹介ビデオに続き、東京オリンピック出場内定の荒井祭里さん（健康・スポーツ学科1年）が登場。音楽学部卒業生・中西史さんの独唱など、華やかな舞台が繰り広げられました。



「われら一期生」として、吉野喜美子さん、中橋昌子さん、赤崎英代さん(左から)が登場。



幼稚園児41人が、学院のキャラクター ラビートと、歌とダンスを披露しました。

武庫女ステーションキャンパス、アネックスI・IIがOPEN

鳴尾・武庫川女子大前駅の高架下に「武庫女ステーションキャンパス(MSC)」[アネックスI][アネックスII]が完成。80周年記念事業の一つとして、地域に開かれた大学を目指して創られました。MSCには「レクチャールーム」、学生と企業との交流の場となる「知るカフェ」に加え、みなと銀行や「Lavy's Café」などを併設。「アネックスI」は、学生・教職員・住民のための健康維持・増進ゾーン、「アネックスII」はセミナールームなどの教育支援ゾーンとして使用されます。



「アネックスI」ウェルネス館：西スタジオ

備え付けの器具を使用して「バンジーエクササイズ」を実施することができます。コンディショニングルーム、東スタジオでもエアロビックダンスやストレッチプログラムを行うことができ、地域の方にも参加していただける機会を提供する予定です。



「知るカフェ」

学生には無料でドリンクが提供され、Wi-Fiも使用可能。企業と学生が気軽に交流できる「知るカフェ交流会」も開催。



瀬口学長は「総合大学として学部学科、研究所やアメリカ分校などが連携することが重要。外部にも開放して色々な学びや活動のできる場にしていきたい。人材育成やリカレント教育、女性活躍分野の開拓にも取り組んでいきたい」と話しました。

「新しい女子大学の創造」と題し、開学当初から時代のニーズを先取りしつつ歩んできた武庫川女子大学の変遷と現在の取り組みを披露し、今後の新たな展開にも触れました。第二部のパネルディスカッションでは、ジャーナリストの松本美奈氏から、女性活躍社会と言われる時代の女子大学の教育や役割についての問いかけがありました。本学大学院臨床教育学研究科長 安東由則教授もパネラーに加わり、アメリカの大学の事例を示して女性リーダーシップの可能性について考えを提示しました。いくつかの論点から、具体的な取り組みや成果、教育によって身に付けて欲しい力についてパネルディスカッションが行われ、最後に河合優年副学長が「このシンポジウムの課題を、教育改革につなげていきたい」と締めくくりました。

### 音楽学部とのコラボ: アナ雪ミュージカル



背景の城をプロジェクションマッピング

天野ゼミの有志メンバーが文化祭で音楽学部とコラボしました。音楽学部2年生によるアナ雪のミュージカルで背景の演出(一部)を担当。ストーリーと登場人物の動きに応じた効果映像をエフェクト制作ソフトのEffekseerなどで制作し、プロジェクションマッピングソフトのMadMapperで舞台上に投影しました。

教授 天野 憲樹  
(大学 情報メディア学科)

### 「銀茶会の茶席」コンペで優秀賞を受賞!



審査員と受賞後の記念写真

建築学会の学生グランプリ「銀茶会の茶席」コンペで建築学専攻修士2年生16名が共同制作した「透鏡(すきや)」が優秀賞を受賞しました。54応募作品から1次審査を通過した4組が、原寸模型を制作し発表する2次審査が建築会館で行われ、審議延長の末に僅差で最優秀賞を逃しましたが、作品は高く評価されました。(拍手) 教授 鳥巢 茂樹  
(大学 建築学科/大学院 建築学専攻)

### 健康生命薬科学科の同窓会「大康会」が開催されました



「大康会」の様子

健康生命薬科学科の卒業生が10期となった節目に同窓会を結成し、9月15日、大阪で同窓会を開催しました。会場には1期生から10期生の約90人が集まり、再会を喜びました。会場は同窓生の会話や笑いで、終始賑やかなムードに包まれていました。次回は5年後の開催と案内がありました。5年後に、また「大康会」でお会いしましょう。

教授 森山 賢治  
(大学 薬学部)

### 創立80周年記念「ふれあいコンサート」



会場の皆様とともに秋の歌を大合唱

創立80周年を記念し、音楽学部教員と専攻科在生によるコンサートを行いました。ピアノ八手連弾《大学祝典序曲》《威风堂々》、オペラ《カルメン》やミュージカル一場面さながらの歌唱と演技、学院歌と学院讃歌の四重唱、そして聴衆の皆様とともに歌う秋の歌3曲の大合唱と、豪華な演奏が続きました。

准教授 大澤 智恵  
(大学 音楽学部)

#### 「甲子園会館の音楽会」武庫川アンサンブル

- 日時 2020年3月14日(土)13:30開場、14:00開演
- 場所 武庫川女子大学上甲子園キャンパス 甲子園会館西ホール  
入場無料、整理券が必要です。

※ホームページ、電話(0798-45-9829:自動音声案内)などで最新の情報をご確認ください。

### 武庫女から拓くコスメティックサイエンス

薬学部に化粧品科学研究室がオープンして、健康生命薬科学科の化粧品教育・研究体制が一層充実しつつあります。大学と企業との連携を進化させるために「武庫川コスメティックサイエンスフォーラム(M-CSF)」を年1回程度定期的に開催することになりました。毎回テーマを設定して最新の研究成果を学び情報交換する場を提供していきます。今回は、学科所属の教授陣により、文系から理系の視点で「化粧品」についてわかりやすく表現したプレゼンテーションが行われます。

- 日時 2020年3月12日(木)13:30~17:00(13:00開場)
- 場所 武庫川女子大学浜甲子園キャンパス  
総合薬学研究教育棟P5-141教室

教授 森山 賢治  
(大学 薬学部)

### 「地域から学び、地域に活かす」看護フェスタ開催



西宮いきいき体操でさらに元気に

看護学部では、健康をテーマに地域の皆様、学生、教職員が交流を深める催しとして、看護フェスタを開催しました。「まちの保健室」や子ども対象の「身体のしくみ」学び体験、高齢者対象の「西宮いきいき体操」など、様々な年代の方に楽しんでいただけ盛況でした。今後も看護学部では、「健康相談ひろば」等を通し「地域から学び地域に活かす」取り組みを続けていきます。 助教 南 裕美  
(大学 看護学部)

### 「卒業生の80年」が完成間近



河内先生授業風景

来春発行予定の「武庫川学院八十年史」の別冊として添えられる「卒業生の80年」。授業を通して学生たちが年史の取材、編纂に当たるというユニークなチャレンジが最終学期に入りました。これまでに加わった学生は4年8期で計197人。うち3人が全期で「完走」しています。いま、「はじめに」と「あとがき」の執筆、「80」のデザインの製作に懸命です。あと一歩。大切な思い出が生まれます。

附属図書館長 河内 鏡太郎  
(共通教育部)

### 健康生命薬科学科の同窓会「大康会」が開催されました



「大康会」の様子

健康生命薬科学科の卒業生が10期となった節目に同窓会を結成し、9月15日、大阪で同窓会を開催しました。会場には1期生から10期生の約90人が集まり、再会を喜びました。会場は同窓生の会話や笑いで、終始賑やかなムードに包まれていました。次回は5年後の開催と案内がありました。5年後に、また「大康会」でお会いしましょう。

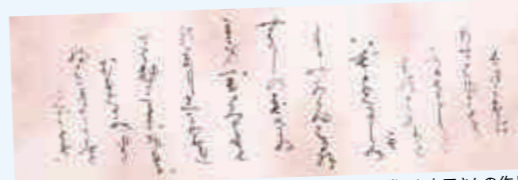
教授 森山 賢治  
(大学 薬学部)

# 武庫川TOPICS

#44

学園全体のニュースを知るにはこのページをチェック! キャンパスの情報をご紹介します!!

### 大日4年山田さんが産経国際書展で大賞受賞



受賞した山田さんの作品

大日4年の山田彩月(さつき)さんが、第36回 産経国際書展にてUS23大賞を受賞しました! US23とは高校生から23歳までを対象とする賞で、山田さんはかな部門での受賞です。美しい文字の受賞作品は、東京から順次全国で、関西では11月26日から12月1日にかけて大阪市立美術館で展示されました。

教授 三品 理絵  
(大学 日本語日本文学科/短大 日本語文化学科)

### English Teaching Seminar 2019を開催しました



英語の模擬授業の様子

10月19日にEnglish Teaching Seminarを開催し、敏森春希先生を講師としてお招きしました。敏森先生は昨年度英語文化学科を卒業し、今年度より英語科教諭として西宮市内の中学校に勤務されています。教職課程履修者を含む26名の参加者を対象に、英語の模擬授業のほか、指導のポイントや教員採用選考試験に関するお話をしていただきました。

准教授 田中 真由美  
(大学 英語文化学科/短大 英語キャリア・コミュニケーション学科)

### Bリーグ公式試合を観戦! ディスカッション!!

プロバスケットボールの公式試合を観戦しました。ゼミでスポーツビジネスを学んでいる学生たちも観戦し、ディスカッションを行いました。「エンターテインメント性の追求」というBリーグのミッションのとおりに、地元西宮ストークスのスタッフや専属チアリーダーが観客を巻き込んでイベントを盛り上げていました。また、地元の中学校の吹奏楽部の招待演奏もあり、地域に密着した運営も印象的だった等の意見が出ました。



スポーツビジネスを学ぶゼミ生

教授 久富 健治

大学 健康・スポーツ科学科/短大 健康・スポーツ学科

### 2020年4月に食創造科学科が誕生!



多くの来訪者で賑わう企業展示

食創造科学科が誕生します。今年度のオープンキャンパスでは学科の特徴であるインターンシップにフォーカスを当て、関連企業・研究機関の一覧・ポスター・製品(82社)を展示しました。また、協力企業の商品を来訪者へ配布し、高校生・保護者・教員の方々に大変好評でした。新しく誕生する食創造科学科にぜひご期待ください。 教授 義澤 克彦  
(大学 食物栄養学科/短大 食生活学科)

### 韓国の協定大学、韓南(ハンナム)大学と伝統服飾展「韓服(ハンボク)」で国際交流



オープニングセレモニーでの展示品紹介

生活環境学科の主催で、本学の協定大学である韓国の韓南大学のキムジョンア教授および大学院生ご一行12名による伝統服飾展「韓服(ハンボク)」が、10月28~29日に、IR 学術研究交流館にて、生活美学研究所や国際センター、附属総合ミュージアム準備室と連携して行われました。韓南大学で交換留学経験を積んだ学科生がセミナーやワークショップで通訳を務め、研究交流で活躍しました。

学科長 牛田 智  
(大学 生活環境学科/短大 生活造形学科)



### 「親子クッキング」を実施しました



当日の様子

今年度も附属幼稚園5歳児クラスを対象に「豆腐入りお好み焼き」など3品を作りました。メニュー立案から後片付けまで附属幼稚園の先生と協働で実施しました。実施後には「親子で楽しい時間を共有できました」など嬉しい感想もいただき、これからも親子で作る、食べる楽しみを実感できる機会を提供できればと思います。 研究員 北村 真理 (栄養科学研究所)

### ステーションキャンパスで事業実施(予定)

2020年度、健康運動科学研究所がステーションキャンパスで実施する事業として、「女性の運動不足解消プログラム」の実施(一般・教職員)を予定しております。事業実施の先駆けとして、今年度の冬に、20~40歳代の女性教職員向けの運動不足解消&デスクワークでの肩こり解消運動などを実施する予定です(少人数限定)。今後、研究所ホームページにて情報を発信していきますので、更新をお見逃しなく! 助手 北浦 舞 (健康運動科学研究所)



研究所ホームページQRコード

### ロボットを動かそう!

高校3年生の「小学生が学ぶアルゴリズム」研究チームが、プログラミング教室を開きました。事前申込のあった小学4年から6年までの女子児童が、計4回の講座を通してプログラミングの世界に触れました。音に反応するロボットやいろいろな動きをするロボットなど、参加した児童は自分だけのオリジナルロボットを、研究チームの高校生に助けられながら製作しました。

教諭 坂本 正孝 (附属中学・高校)



プログラミング中の児童



「小学生が学ぶアルゴリズム」研究チーム

### 2019年度公開講座を開催しました



石川道子先生による講演

11月24日に公開講座を開催しました。石川道子先生(本学非常勤講師・小児科医)に「発達障害のライフステージ—幼児期・学童期・思春期・成人期の支援—」と題して、発達障害の幼児期・学童期・思春期・成人期、それぞれの時期で何をすればいいのかわかりやすく解説していただきました。当日は約300名の方にお越しいただき、大盛況でした。 助手 梶本 雪子 (発達臨床心理学研究所)

### 臨床教育シンポジウムを開催しました



臨床教育シンポジウム

11月16日、今日的課題である「発達障害の就労とその定着」をテーマにシンポジウムを開催しました。梅永雄二氏(早稲田大学教授)の基調講演、シンポジストとして就労支援を行う企業の鈴木慶太氏、発達障害当事者でもある広野ゆい氏からの話題提供、総合討論を通じて、参加者とともに有意義な時間と場を共有しました。 教務助手 橋詰 啓子 (教育研究所)

### シンポジウム「女子大学の教師教育を創る」を開催しました



シンポジウム当日の様子

5/25に教育学部と学校教育センターが協力し、シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは本学だけでなく、同志社女子大学、日本女子大学、京都女子大学、奈良女子大学の関係者らが登壇し、これからの教師教育について議論しました。今後も大学同士の連携を深め、さらなる教師教育の発展につとめていきます。 助教 古波藏 香 (学校教育センター)

### 大きなお芋が掘れたよ!

附属中高との交流会に参加しました。交流会では、オーケストラ部の演奏を聴いた後、園芸部のサツマイモ畑に移動し、お芋掘りを楽しみました。次々に顔を出す大きなお芋に歓声が上がり、子どもたちも大満足。吹奏楽やオーケストラ、バントワリングの鑑賞やお芋掘りの体験など、親子で楽しむ恒例の交流行事になっています。



大きなお芋が掘れたよ!

園長 大槻 伸子 (附属保育園)

### 「附属幼稚園 開園40周年記念運動会」

秋晴れの日、附属幼稚園では「学院創立80周年」・「開園40周年」の記念運動会を開催、園児たちがお祝いの「くす玉」を割って運動会が始まりました。来賓の方々や保護者の皆様がたくさん声援をいただき、玉入れをしたり走ったりなど、元気いっぱい楽しい運動会になりました。

園長 大江 嘉津子 (附属幼稚園)



「おめでとー!!」

### 新スタジオから放送!

ICTボランティア学生によるお昼休みのインターネット生放送「武庫女ライブストリーム」。2017年6月の開始から数えて277回目の10月16日の放送は、完成したばかりの鳴尾・武庫川女子大前駅「武庫女ステーションキャンパス」のスタジオから発信!学生目線で楽しい話題を提供中です。〈平日: 12:30-12:45放送: <http://mwu.jp/live>〉センター長 丸山 健夫 (情報教育研究センター)



ICTボランティアの学生たち

### バイオサイエンス研究所公開セミナー開催



講演中の櫻井先生

11月30日に、公開セミナーを開催しました。講師は櫻井実先生(東京工業大学教授)で、「生体材料の乾燥保護剤」をテーマに、動植物が乾燥時に多量に発現するLEAタンパク質の有用性についてお話いただきました。研究員、院生、学部学生が多数参加して活発な討議が行われ、今後の研究に役立つ有益な情報を頂きました。 研究員 西川 淳一 (バイオサイエンス研究所)

### 西宮市長がアメリカ分校に来学されました



西宮市長アメリカ分校ご来学

10月21日スポケーン市を訪問中の石井登志郎西宮市長がアメリカ分校(MFWI)視察にお越しく下さいました。秋学期留学生全員でご来学を歓迎し、石井市長から学生に「留学を通して他者との違いを認め、自分自身を客観視できるようになってください」と激励のメッセージを頂きました。 MFWI 副学長 中原 朗裕 (MFWI)

### 卒業生の皆さん、丹嶺学苑研修センターを利用しませんか?

今年度は、クラス・ゼミ・クラブの同窓会、鳴松会の支部活動の場として、すでに100名近い卒業生の皆さんに丹嶺学苑研修センターを利用いただいております。来年度は、卒業生の皆さんが優先的に利用できる「OGデー」を設定する予定です。旧友との楽しいひとときを、ゆっくりとお過ごしください。 岸本 和枝 (丹嶺学苑研修センター)



ロビーにてお子様と一緒に

### 「第40回 世界健康フォーラム2019・東京」

UNESCO、厚生省等の後援で“人生100歳時代の生き方上手”のフォーラムを11月6日に東京よみうりホールで開催しました。約900名の参加者が集まり、「2019年モナリザ賞」は本学附属高等学校「創造サイエンスコース食育研究班」が受賞しました。創立80周年記念事業として、多くの方々に武庫川女子大学の活動を知ってもらうことが出来ました。事務局 木村 晃子 (国際健康開発研究所)



「2019年度モナリザ賞」授与式

### トルコのエルドアン大統領に名誉博士号が贈呈されました!



エルドアン大統領夫妻と建築学科・建築学専攻の学生たち

2019年6月27日、G20首脳会議に合わせて、トルコ共和国のエルドアン大統領が甲子園会館を訪れ、瀬口和義学長が「武庫川女子大学名誉博士」の称号を贈呈し、トルコ文化研究センター長の岡崎基幸教授がトルコとの国際交流の経緯を紹介しました。贈呈式後の記念講演で、大統領は「女性がますます活躍できるよう、トルコでも女子大について研究したい」と述べられました。 センター長 岡崎 基幸・助教 中村 優花 (トルコ文化研究センター)

# 高飛び込み

健康・スポーツ学科1年 兵庫県・甲子園学院高校出身

# 荒井祭里さん

2019年7月に韓国・光州で行われた世界選手権で9位入賞を果たし、2020年東京五輪の出場枠を獲得。全競技の中で、東京五輪内定の女性第1号になりました。

「代表内定のチャンスは、今回の大会を含め2回。先に決めた方が五輪まで余裕を持って取り組め、気持ち的にも楽なので、ここで決めたいと思って大会に臨みました。内定が確定した時は、本当にうれしかったですね」

日本の水泳選手初の五輪4大会連続出場を果たした寺内健選手、リオデジャネイロ五輪出場の板橋美波選手などを輩出した名門・JSSS宝塚スイミングスクールに所属。「緊張感のある雰囲気の中、日々高いレベルで練習に取り組んでいるのが、自分へのいい刺激になっています」と荒井さん。

入水時に水しぶきがほとんど出ない「フースプラッシュ」が最大の強みで、観戦時の注目ポイントになります。

「本番に向けてもっと練習量を増やし、自分を追い込み、五輪では最高の演技をしてメダルを獲得するように頑張ります」と抱負を語りました。

また、1歳年上の板橋美波選手とのペアによるシンクロナイズド飛び込みも代表入りが有力視されており、現在は2020年2月に行われる国内選考に向け、調整を進めています。

「ケガで戦列を離れていた板橋さんの調子も上がってきており、国内選考はもとより、その先にあるワールドカップでも結果を出し、東京五輪につなげていければと思います」



写真: 日刊スポーツ/アフロ

入水時の  
フースプラッシュに  
注目してください！

## PROFILE

兵庫県生まれ。小1で競技を始め、10m高飛び込みに本格的に取り組み出したのは中3から。Nissy(西島隆弘)のファンで、試合前によく聴くのは大好きな楽曲「The Days」。授業に出て、キャンパスで友達と会うのがいい気分転換になっているという。

### ■主な戦績

- 高飛び込み 高校総体3連覇
- 2015年、2016年 日本選手権 10mシンクロナイズド飛び込み優勝(佐々木那奈)
- 2017年、2018年 日本選手権 10m高飛び込み優勝
- 2018年 アジア大会 高飛び込み5位、シンクロナイズド飛び込み4位(板橋美波)
- 2019年 世界水泳 高飛び込み9位

## MATSURI ARAI

# めざせ！東京五輪

# 期待のアスリート

いよいよ開催が迫ってきた東京五輪。その出場やメダル獲得に向け、全力で頑張っているアスリートたちが武庫女にもいます。今回は東京五輪内定の女性第1号となった高飛び込みの荒井祭里選手と、前回大会のリオデジャネイロ五輪で日本代表として体操団体4位入賞を果たした杉原愛子選手が登場。東京五輪に向けての意気込みや抱負について伺いました！

前回大会のリオ五輪で団体4位となり、メダルまであと一歩のところまでいった杉原さん。

「初の五輪は緊張しましたが、いざ舞台上に立つと、いわゆる『ゾーン』に入った感じで、本番では最高の演技を披露することができました」

もともと緊張しやすいタイプだったが、以降メンタル面が強くなり、前回大会から3年が経った今は、集中力や自信が増したと話します。

2019年4月に本学に入学し、高校時代から活動拠点としていた東京から再び関西へ。体操部に所属し、全日本のコーチでもある大野和邦監督のもと、日々練習に取り組んでいます。

「大野先生に指導いただきたいという思いもあって、大阪に戻ってきました。武庫女の体操部は、誰かが新しい技をできたりするとハイタッチして全

員で喜びを分かち合うなど、楽しい雰囲気の中、みんなで高め合っている環境が魅力です」

大学までは大阪の自宅から通い、駅までの送り迎えなど、家族のサポートも大きな支えとなっているようです。「両親はもちろん、姉、兄も含めて家族全員が仲良し。自宅に戻るとリラックスできます」と笑顔を見せてくれました。

得意種目は平均台とゆか。中でも、自らの名前が付けられたスギハラ(足持ち2回ターン)という技を持つ平均台は特に注目です。

「感動や元気を与えられる、そんな演技を通して、日頃から私を応援してくれている皆さんに感謝の気持ちを伝えられたいと思います。まずは代表入りを決め、団体がメダルを獲得のが目標です！」

自分の名前が  
付いた技  
「スギハラ」を  
決めたいです！



## AIKO SUGIHARA

# 杉原愛子さん

短期大学部 健康・スポーツ学科1年 東京都 藤村女子高校出身



## PROFILE

大阪府生まれ。ご両親も体操の選手で、お姉さんが体操をやっていたのを見て、自らも4歳の時に体操を始めた。AAAのNissy(西島隆弘)のファンで、ゆかの演目にNissyの曲を取り入れることも検討中。地元関西からスタートし、再び五輪での活躍を目指す。

### ■主な戦績

- 2015年 アジア選手権 個人総合1位 団体1位
- 2016年 リオオリンピック団体4位
- 2017年 世界選手権 個人総合6位
- 2019年 全日本種目別選手権 ゆか2位
- ユニバーシアード団体1位 個人総合4位 種目別ゆか2位

# 2020

# This is ME!

夢のムコウガワ



製品検査

## 杉山裕香さん

Sugiyama Yuka

2019年3月、短期大学部 生活造形学科 インテリアコース卒業  
石川県立野々市明倫高校出身  
カルモ精工株式会社 製造部仕上げグループ

### 自動車から精密機器まで、日本の産業製品を支えるモノづくりの一端を担う。

スピードと正確さが求められる製品の素材検査を担当

金属を溶かし、鑄型に流し込んで部品を作る「鑄物」という分野から、自動車・鉄道・電機・精密機械などあらゆる産業製品の進化を支えるカルモ精工（神戸市西区）。杉山さんは同社の製造部仕上げグループの中にある出荷検査班に所属し、素材検査という業務を任されている。

「鑄型から鑄物を取り出した時に、製品の緑などにはみ出した部分（バリ）や、表面が盛り上がる『駄肉』と呼ばれる部分が出る場合があります。そうした余計な部分がないかを確認するとともに、見つけた際にはヤスリなどを使ってバリや駄肉を削ります」

目視での製品チェックと手動での研磨の後、ショットプラスト機という専門の機械を使って表面に磨きを掛け、最後にノギスという測定器などを使って寸法を測る。担当する

製品は横々だが、杉山さんは自動車をはじめとする乗り物のブレイキに使うピストンなどを手掛けることが多く、1日50〜300個の検査を行う。

「ピストンだけでも何百種類とあり、最初の頃は名前を覚えるだけでも大変でした。検査班が見逃すと不良品を納品することになるので、常に緊張感を持って仕事に臨んでいます」と杉山さん。検査する製品の数・種類をはじめ、少しずつ任せられる業務も多くなり、自身の成長を感じやすいところもやりがいになっているという。

社長の熱いメッセージに興味を持ち、未知の世界に飛び込む

建築やインテリアなどの物作りに興味があり、短大の生活造形学科に入学した。就職も学んできたことと直接関わりのある分野に進もうと考えていたが、そんな杉山さんがカル



同僚には、武庫女大学の先輩の平岡優紀子さん（短期大学部食生活学科卒業）もいます。

「設計の授業では周りのレベルが高く、製品の完成度で負けないように工夫をしました。学生時代に鍛えられた集中力は、仕事にも生かされていると思います」

加工検査班は現在、製造部仕上げグループの中の一つだが、独立して「検査グループ」を立ち上げる話も社内で行われている。その際の責任者になることを目標に、今は目の前の仕事に全力で取り組む毎日だ。



小4からソフトボールを始め、大学では野球部に入学。ポジションはセンター。貞和寮ではお昼と休日は自炊していました。

Turning Point

野球部の活動や学生寮での生活を通じて、人間的にも成長できました！



出荷検査班に所属し、鑄物の素材検査を担当。鑄物にする際に空気が入り、「巣」と呼ばれる穴が開くこともあり、そのチェックも行います。不良品が出る確率は低いですが、それだけに検査に気を抜かず、早さと正確さを求めて作業に取り組みます。

検査員としてさらに経験を積み、作業の精度を高めるのが直近の目標。素材検査の仕事を一通りマスターし、近い将来、次のステップとなる加工検査なども手掛けられるようになるのが目標です。



### デザイン会社から産業用ロボットの世界へ。インストラクターとして経営者、技術者をサポートする。

ロボットスクールの講師として、技術者の講習を担当

前職のデザイン会社では企画営業職として、企業のブランド戦略に関わっていた弓山さん。仕事のやりがいが大きかったが、「企業間同士の仕事を中心で、お客様の反響が目に見えにくく、違うこともやってみたい」と転職を考えるように。そんな時、仕事で知り合った方から「女性の営業を探している」と今の会社の社長を紹介してもらったのが、入社の一歩となった。

高丸工業では、産業用ロボット、ロボットシステムの企画・設計・製作・販売からメンテナンスまでを手掛けている。その中で、弓山さんはロボット技術部の主任として、ロボット作業技術者を対象としたロボットスクールの講師を担当。主に、労働安全衛生規則に基づいた「産業用ロボット特別教育」講習を受け持つ。

「入社後、まずは専門知識を勉強し、中央災害労働防止協会が発行するインストラクターの修了証を取得。直後から講師として現場に立ち、指導を通して、私自身も専門分野の理解を深めていきました」

そのほか、ロボット操作をはじめ、事業へのロボット導入の相談、導入後の現場でのトレーニング、ロボットスクールの新規立ち上げ準備など、幅広い業務を担う。

「転職の動機でもありましたが、お客様から事業に関する具体的な話を伺えたり、喜びの声が聞けたり、反応が直に見られるのが何よりのやりがいになっています」

在学中に勉強した心理学が、人と関わる仕事で生かされる

学校の先生を目指して教育学科に入学し、体育の教員免許を取得するも卒業後は民間企業に就職。以降、業態は様々だが「人と関

わる仕事」に継続して携わってきた。

「今のインストラクターの仕事は『人に教える』ということで、教育学科で学んできたことが生かされていると思います」と弓山さん。また、ふとした時に「今、相手の方はどう思っているんだろ」と相手の立場になって考えられるのは、在学中に専門科目で心理学を勉強したことが素地となっており、その視点は対人関係の仕事をする上で大いに役に立っているという。

製造業の現場でも、女性が活躍できる仕事はたくさんある！

中小企業の後継者問題、大手企業の作業の効率化といった観点から産業用ロボットの需要が高まっている。高丸工業でも、ロボットシステムの企画・設計・製作を担う技術者はもとより、インストラクターの数も不足気味だ。「男性だけでなく、女性インストラクターの数を増やしたいですね」と弓山さん。その言葉の裏には、自身の経験から、中小企業の経営者の方々を指導するには、女性ならではのきめ細かな対応が適しているという思いがある。

「製造業や産業用ロボットと言われても女性の方はピンと来ないと思います。私自身、仕事で関わるまで知りませんでした。だけど、女性が活躍できる場はありますし、女性がロボットを扱う現場でバリバリ仕事ができるのは、格好いいと思います」

Turning Point

前職の知人の紹介で今の社長と出会う！



ロボットに関わる仕事に就くとは考えてもいませんでしたが、偶然の出会いから今に至っています。

「女性インストラクターの増員」。その実現が、自社や業界の活性化の大きな一歩にもなりそうです。



学生時代はサッカー部に所属。2年次にインカレ3位になったのが一番の思い出です。（当時の新聞記事より）



月曜から木曜までは東京でロボットスクールの講師を務め、金曜は西宮の本社が必要に応じてお客様の元に出向しています。岐阜と山口で新しいスクールの拠点の立ち上げの準備にも関わり、定期的に各拠点へも出張しています。

産業用ロボットを使う技術者を増やすのはもちろん、その人々を指導するインストラクターの育成も急務となっています。性別に関係なく活躍できる仕事と想いで、一人でも多くの女性インストラクターを育てたいです。



## 弓山千亜紀さん

Yumiyama Chiaki

2002年3月、文学部教育学科 健康・スポーツ専攻卒業  
愛媛県立新居浜西高校出身  
高丸工業株式会社 ロボット技術部 ロボット技術課 主任

インストラクター

# 武庫川就職 掲示板

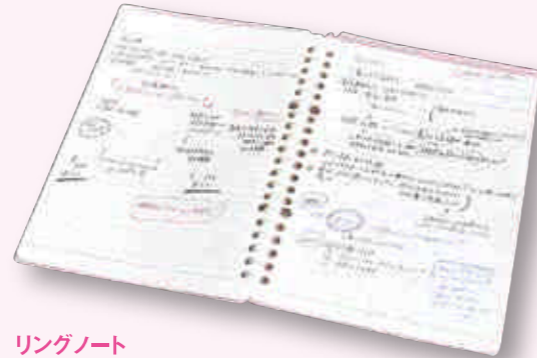


気になる就職活動の“今”をお伝えするコーナー。

## 就活にお役立ち オススメ小物

### ストッキングとヘアワックス

就職活動中はよく歩きます。何かのタイミングでストッキングが破れるということもあるので、常に代えのストッキングを一つ鞆の中に入れておくことと安心ですよ。同様に、面接前に髪の毛の乱れを整える用にヘアワックスの携帯もおすすめです。



### リングノート

ページの取り外しができるリングノートで、好きなところに後からページを挿入できます。同じ企業や業界など、関連する項目を後から追加するなど、気付きや考えたことをまとめるのに便利でした。

入学当初から特別クラスのACE (Advanced Course in English) コースで学び、英語学習に力を入れ、アメリカ分校に留学。3年生からは英語スピーチ・プレゼンテーション研究室に所属し、より高度な内容を習得しました。4年生の時には全国学生英語プレゼンテーションコンテストにも参加し、800人中トップ50に入りましたが、低年次の頃から挑戦していればもっと上位を目指せていたのではという思いも芽生えました。この時に実感した「早くから

文化や価値観の違う人たちと  
思いを共有し、ビジネスを展開  
したい

「就活は早め行動した方がいい」とよく言われます。実際に早い時期からインターンシップに取り組んだことで自分の欠点が見え、それを克服するためには何が必要かという視点も生まれました。早めに行動し、自らの課題に挑戦していく姿勢が大切だと思えます。

「就活は早め行動した方がいい」とよく言われます。実際に早い時期からインターンシップに取り組んだことで自分の欠点が見え、それを克服するためには何が必要かという視点も生まれました。早めに行動し、自らの課題に挑戦していく姿勢が大切だと思えます。

挑戦することの大切さ」は就職後にも生かせそうです。また、毎日1時間はTOEIC®の勉強にも取り組む、入学時600点だったTOEIC®は900点に。英検準一級も取得し、いずれもエントリーシートや面接時の自己PR材料となりました。

卒業後は、培ってきた英語のスキルを生かし、グローバルに活躍できる仕事に携わりたいと考えています。まずは営業サポートの仕事に就くことが決まっていますが、将来的には海外営業として、文化や価値観の違う世界中の人たちと仕事を通して思いを共有し、会社に貢献できる人材になるのが目標です。

## Myピタモン

就職活動中も説明会が終わった後の時間などを利用して、週に一度は友達とご飯に行っていました。そこでの情報交換はもちろん、他愛のない話をするのがいい気分転換に。タピオカ屋さんにもよく行っていました(笑)。



### 挑戦することの大切さ

「私には無理かな」と就職活動中、壁にぶつかることもあります。だけど、自分に足りない部分を分析し、どうすればいいかを考え、諦めずにチャレンジし続ける姿勢が大切です。

### 自分の成長につながる

就職活動は大変なことも多いですが、課題克服に取り組んだことが自身のスキルアップや人間的な成長にもつながります。その視点があると苦しい時も頑張れますよ!

### 自己分析をしっかりと

何度も自己分析を行い、自分の人生を深掘りすることで、これまで気付いていなかったエピソードに出会うことも。他にはない、オリジナルの自己PRにつながります。

文学部 英語文化学科 4年

## 山田 佑菜さん

武庫川女子大学附属高校出身

様々な業界・企業の  
インターンシップに参加

インターンシップ解禁日となる3年生の6月1日から活動を始めました。業界や企業のことを何も知らなかったため、まずは情報を集めて自分の就きたい職業の方向性を探ろうと、企業説明会をはじめ、様々な会社のインターンシップや社員座談会に参加。1日で完結するプログラムを入れること約30社のインターンシップを体験しました。活動を通して見えてきたのが社会の基盤を支え、多くの人の役に立つ会社で働きたい」という目標です。

中でも技術革新の根幹となる素材・電子部品業界に興味を持ち、そこで浮



## 京セラ株式会社

総合職

挑戦し続ける姿勢を忘れず、  
第一志望の企業に就職内定!  
身に付けた英語力を生かし、  
グローバルに活躍するのが目標です。

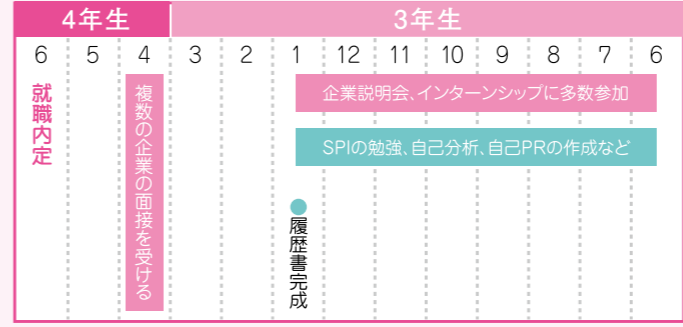
3年生の早い時期から積極的にインターンシップに参加したという山田さん。体験を通して、自分の志向や就職活動の軸を見つけ、最終的に第一志望だった京セラに就職内定。その経過や取り組んできたことの具体的な中身について、詳しくお伺いしました。

かび上がってきたのが内定先の京セラでした。特に、粘り強く、成功するまでチャレンジし続け、世の中で誰もやっていないものを創り出すという創業時から受け継がれる精神に共感し、「ここで働きたい!」と第一志望の企業になりました。

早めに行動し、  
挑戦していく姿勢が大切

インターンシップに数多く参加している、行く先々で他大学の優秀な学生と出会います。交流を通じて自分の足りないところが文章力とコミュニケーション能力であることが見えてきました。克服を目指し、書く技術・伝

### 内定までの就活スケジュール



## 後輩への アドバイス



### 山田さんが活用した本

- 「文章力の基本」 阿部紘久著 (日本実業出版社)
- 「絶対内定2020」 杉村太郎・熊谷智宏 著 (ダイヤモンド社)



ことばとの対話



理論・記述・言語教育

著者名 藤岡 克則、北林 利治、長谷部 陽一郎  
出版者 英宝社  
出版年 2019.02  
寄贈者 三浦 秀松(英文)

朝鮮漢詩古今名作選



著者名 下定 雅弘、豊福 健二  
出版者 勉誠出版  
出版年 2019.02  
寄贈者 豊福 健二(日文)

キッズ☆ドリームウエア

作品集2012～2018



著者名 稲田 萌、西川 朋子、中尾 時枝  
出版者 武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科・短期大学部生活造形学科  
出版年 2019.03  
寄贈者 中尾 時枝(環境)

THE WISDOM



vol.17-March2019

著者名 清水 利宏  
出版者 武庫川女子大学文学部英語文化学科英語スピーチ・プレゼンテーション研究室  
出版年 2019.03  
寄贈者 清水 利宏(英文)

ひと目でわかる食べ物のしくみとはたらき図鑑



著者名 千葉 喜久枝  
出版者 創元社  
出版年 2019.01  
寄贈者 北村 真理(食物)

日本古代伏流文化攷



著者名 寺本 健三  
出版者 寺本 健三  
出版年 2019.04  
寄贈者 寺本 健三(建築)

「抱護」と沖縄の村落空間



伝統的地理思想の環境景観学

著者名 鎌田 誠史、山元 貴継、浦山隆一  
出版者 風響社  
出版年 2019.02  
寄贈者 鎌田 誠史(環境)

登録有形文化財建造物旧豊郷尋常高等小学校本館公開活用整備工事報告書



著者名 石田 潤一郎 ほか執筆  
出版者 芙蓉会  
出版年 2019.03  
寄贈者 石田 潤一郎(建築)



子どもの貧困／不利／困難を考えるⅢ



施策に向けた総合的アプローチ

著者名 埴橋 孝文、矢野 裕俊、田中 聡子、三宅 洋一  
出版者 ミネルヴァ書房  
出版年 2019.06  
寄贈者 矢野 裕俊(教育)

ここから始める「憲法学習」の授業



児童生徒の深く豊かな学びのために

著者名 長瀬 拓也  
出版者 ミネルヴァ書房  
出版年 2019.05  
寄贈者 吉井 美奈子(教育)、大津 尚志(学校教育センター)

ゾウ



著者名 ジェニ・デズモンド、福本 由紀子  
出版者 BL出版  
出版年 2019.09  
寄贈者 福本 由紀子(英文)

スポーツ人類学の世界



早稲田の窓から

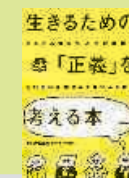
著者名 寒川 恒夫研究室  
出版者 虹色社  
出版年 2019.07  
寄贈者 渡邊 昌史(健スポ)

「ひと・もの・こと・ば」から読み解くスポーツ文化論



著者名 田里 千代、渡邊 昌史  
出版者 大修館書店  
出版年 2019.08  
寄贈者 渡邊 昌史(健スポ)

生きるための「正義」を考える本



著者名 押谷 由夫  
出版者 学研プラス  
出版年 2019.02  
寄贈者 押谷 由夫(教育研究所)



売れ筋ランキング@大学ブックセンター(紀伊國屋書店に委託)調べ2019年9月～11月の売り上げを基に集計

BOOK TOP 10

1. さあ、才能に目覚めよう 新版/トム・ラス/日本経済新聞出版社
2. 白銀の墟 玄の月 十二国記 第一巻/小野不由美/新潮文庫
3. 白銀の墟 玄の月 十二国記 第二巻/小野不由美/新潮文庫
4. あきない世傳金と銀 七 碧流篇/高田郁/角川春樹事務所
5. 白銀の墟 玄の月 十二国記 第三巻/小野不由美/新潮文庫
6. 白銀の墟 玄の月 十二国記 第四巻/小野不由美/新潮文庫
7. こども六法/山崎聡一郎/弘文堂
8. マチネの終わりに/平野啓一郎/文春文庫
9. 医者が教える食事術 最強の教科書/牧田善二/ダイヤモンド社
10. 恋の Gondola/東野圭吾/実業之日本社文庫

MAGAZINE TOP 10

1. Myojo
2. AERA
3. 週刊ザ・テレビジョン
4. 週刊TVガイド
5. an・an
6. non・no
7. POTATO
8. WINK UP
9. mina
10. ViVi

CD&DVD TOP 5

1. 嵐 [5×20 All the BEST!! CLIPS 1999-2019]
2. NEWS [NEWS 15th Anniversary LIVE 2018 "Strawberry"]
3. Official髭男dism [Traveler]
4. ジャニーズWEST [Big Shot !!]
5. BLACKPINK [KILL THIS LOVE]

## 武庫川学院創立80周年記念

「夢と虹基金」のご支援ありがとうございます！



武庫川学院が創立80周年を記念し、学生・生徒たちの活躍を応援・支援する基金として、2017年7月より募集をしておりました「夢と虹基金」は、2019年度より「武庫川学院創立80周年記念特別奨学」の給付を始めています。2019年度の採用者数は32名、奨学金総額は595万円です。

〔武庫川学院創立80周年記念特別奨学〕 修学意欲があるにもかかわらず、経済的理由により、学業の継続が困難な大学院、大学、短大、中高の学生・生徒を支援するため、卒業生、保護者、教職員、各種団体、一般の方など、趣旨に賛同いただいた方々のあたたかい寄付により設けられた奨学制度です。

「夢と虹基金」のご寄付から以下の  
「支援金・奨学金・褒賞金」の募集をいたしました。

(2019年12月20日～2020年1月15日)

- 「オリンピック・パラリンピック選手育成支援金（給付型）」
- 「女性活躍支援奨学金・褒賞金（給付型）」

### 2019年12月末現在の募金状況は

鳴松会員（卒業生）、保護者（大学・短大、附属中高）、現教職員、  
元教職員、鳴松会支部、団体、一般、法人など

総計 2,752件 2億684万6,317円となっております。

詳しくは、学院ホームページ「本学への支援をお考えの方」  
(<https://bokin.mukogawa-u.ac.jp/bokin80/>) に掲載しています。

今後も募金活動を継続いたしますので、ご支援のほどよろしく願いいたします。

問合窓口：経理部 財務課

窓口時間：9:00～16:00 ※土日祝日を除く

TEL.0798-45-3752

「リビエール」は、あなたのご参加をお待ちしています。

「リビエール」は、在学生・卒業生・教職員の皆さんの声を伝える広報誌です。キャンパス内外の様々な情報や皆さんの近況報告などを、お気軽に広報室までお寄せください。各コーナーへの登場希望、写真の投稿も大歓迎です。ご参加をお待ちしています。

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46 武庫川学院 広報室  
TEL.0798-45-3533 FAX.0798-45-3552

本学のURL <http://www.mukogawa-u.ac.jp/>



Facebookページ  
<https://www.facebook.com/MWULavy>



広報室 twitter  
<https://twitter.com/MWULavy>



広報室 Instagram <Mukogress>  
<https://www.instagram.com/mwu.mukogress/>

QRコードの読み取り機能がある携帯またはスマートフォンをお持ちの方は、それぞれのQRコードをご利用ください。